

3月の声が聞こえてくると、私の記憶一面に広がる様によみがえってくる花があります。それは、黄色いラッパズイセン。その鮮やかな色彩は力強い生命の輝きを表し、また、その香りはほのかな中にも凛と存在していることを伝えていて、春の訪れを早くに告げてくれる花でもあります。

私が園芸を学んでいた短大1年の時のことです。寒い1月～2月が過ぎ、卒業を間近に控えた2年生達が何とはなしにソワソワしてくる頃、まだ外の空気は冷たく花壇も凍てついていて何の彩りもないけれど、すでに陽の光の中にキラキラした春の輝きを感じ取ることができました。それは、新しい出発を迎える彼女たち2年生が、大きな不安の中にも確かな希望を抱いているその心境を同時に表しているかの様でもありました。

そして、ビニールハウスの中に一步踏み入れれば、そこはもう春のパラダイス！室内の空気は、ハウスのビニールを破らんばかりに温かく膨らんでいて、すでに咲き始めている春の花々のエネルギーが満ち溢れています。その中心となるのが、黄色いラッパズイセン。これは、卒業式当日、2年生の胸に付けてあげる花飾りのために栽培されているのです。

この様に私たちの誰にでも、思い出の風景に伴う色や香りを持っています。

また、年齢的なことで私の体に変調があったこの2年近くの間、普段に無く目は光を眩しく、鼻は物の匂いを強く、耳は日常生活の中の音を響くように、最後は口にする物の味が全てしびれるがごとく……と、あらゆる器官が過敏に感じ取る

状態が続き、そのとき私は、「これこそ、本来人間が自然界の中で生きていく為に身につけていた感覚なのかもしれない。それが、文明の発展に伴って体のあらゆる感覚が鈍くなって行ってしまった」と、思わずにはいられませんでした。

世の中が息苦しくなりつつある今の時代、心の感覚だけ敏感でいたいと思うのです。それは……人を迎え入れる優しいまなざし。悲しみにある人の息に合わせて呼吸できる鼻。また、気持ちを伝えようとしてくる人へ傾ける開いた耳。そして、その人に希望をもたらす言葉を発することのできる口……という心の感覚のすべて。

なぜならば、すでに私たち自身が神様からそのように受け入れられているのですから、今度は私たちが誰かを同じように受け入れてあげる番なのです。私の心の色と香りで、その人を包んであげる時なのです。

JUN



Photo:scx/Steve Woods

# 感じとる心

わが子よ、わたしの言葉に心をとめ、わたしの語ることに耳を傾けよ。  
それを、あなたの目から離さず、あなたの心のうちに守れ。

箴言 4章 20～21節（口語訳）



大人を育てる  
**最終回**  
 絵本からのメッセージ



はくさい夫人とあおむしちゃん  
 著：柳川 茂 絵：河井ノア  
 著者のことば社  
 出版社：いのちのこぼれ  
 フォレストブックス

絵本という小さな子どものための本というイメージがありますが、大人にとっても生きるヒントになる本がたくさんあります。ここでは子育てという視点でお話をしていきますが、あらゆる人間関係においても役に立っていただければ幸いです。

**きれいなものって何だぞう？**  
 いつまでも「きれいでいたい」「ステキな人でありたい」という願望は誰にでもあるものだと思います。だからこそ、目標にできるような輝いている人になりたいと思います、そのために努力をするわけですが、本当に「きれいなもの」「ステキなもの」って、いったいどうやったら手に入るものなのでしょう？

**はくさい夫人に起こる悲劇**  
 この本に出てくる「はくさい夫人」は、誰もが羨む美しさを持つ、まさに貴婦人中の貴婦人。美意識の高いはくさい夫人は、自らを磨くことに余念がありません。ところが、ある日入念に手入れをしているドレスに一匹のくいしんぼう青虫がやってきます。そして嫌がるはくさい夫人のもとに、次々と

**与えるという行為は、なくすことではない**

それからというものは、はくさい夫人は、自分のドレスを惜しみなく青虫に与えました。ドレスはどんどん食べられていきましたが、彼女の毎日はどうも楽しくなってきました。ところがある朝、目が覚めると青虫が一匹もいなくなっていました。もう誰も羨ましいと思わなくなった穴だらけのドレス、突然の青虫たちの失踪は

くさい夫人の心の中は悲しみでいっぱいになりました。でも、そんな彼女に「フーマーさんは微笑みながら言っているんです。『君は、たくさんたくさん与えたいね。与えるという行為は、なくすことではないんだよ』と。するとそこに白い花びらがひらひらと舞い落ちてきます。『お母さん、ただいま』と蝶々になって帰ってきた青虫たちに囲まれた彼女は、まるで純白の花びらのドレスまとったように輝いたのです。

**本当にきれいなもの**

子育ては、体力も精神力も必要であり、それこそ毎日が必死な思いだと思います。そしてふと、むなしさを感じたり、ぼろぼろの自分の姿に悲しくなることもあります。そんな時に、絵本の最後の詩が「本当にきれいなもの」が何なのかを教えてください。『小さな青虫を夢中で助けたはくさい夫人のおでこに浮かぶ汗』や『青虫にもう一度会いたい』と祈るキスだらけの手』など、相手との関わりの中で生まれる内から芽生えるあたたかな感情。それこそが、わたしたちを本当に輝かせてくれる答えなのではないでしょうか。目に見えるものばかりに心を奪われることの多いわたしたちですが、神様の存在もまた、わたしたちの目には見えません。本当に大切なものは、目には見えないものなのかもしれません。はくさい夫人が青虫たちとの出逢いによって見つけた大切な答えをこの絵本の中から見つけてみてください。

# 聖書物語 He Qi Arts



Carrying Cross  
 by He Qi, www.heqiarts.com

## 十字架を背負う

ここで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。こうして、彼らはイエスを引き取った。イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。

ヨハネによる福音書 19章 16～18節

※ヘイチアーツは今月をもって終了させていただきます。来月より新コーナーが始まります。お楽しみに。

## いのちを語る。

地球の命(創世記6章5〜6節)

小太郎：(以下)小こねえ、母ちゃん。どうして毎週箱に入ってお買い上げするお野菜には土がついてるの？

たろこママ：(以下)たごそれはねー野菜に土がついてるのだからよ。元々土に植えられたものだからね。

小こねえ、どうしてお店に並んでいいるお野菜は全部キレイなんですか？

たろこママ：(以下)たご、使った次々ポイしてたら大変なことになっちゃう……と言っより、もう地球が病気になるかも(汗)。

地球温暖化で海の流れるも変わり、寒い地方の水が溶けて水かさが増えて南の島がなくなりかけてたり

小こねえ、でも人間の他に悪いことってまっか？もちかちて、病気の地球ではなく人間でわないでつか(焦)？

たろこママ：(以下)小太郎、痛いこといってくるなあ。母ちゃんも、もしかしたら地球、ひいてはこの宇宙がそもそも一つの大きな生命体じゃないのかなって感じるよ、あな

小こねえ、この地球も大事に大事にしないとならないんでね？

たろこママ：(以下)小太郎、いいこと言っじゃない。瓶や缶、牛乳パックをリサイクルとか、まずは小さなことから「ツツツ」とね。でないと続かないから(笑)

小こねえ、じゃあ母ちゃんの今年の抱負は、止めたい方がいってこつてつね(詳細は2月号参照！)？

たろこママ：(以下)ま、その件はまた別の機会に話し合おうね



2年に亘る、たろこママのコラムは今月をもって終了させていただきます。長い間ありがとうございました。